

## IV 検討結果まとめ

### 1. 高井戸第二小学校改築基本方針

#### (1) 子供の夢が、未来が広がる学校

##### ～「学びの場」としての高機能で多機能な学習環境の整った学校づくり～

- 学年区分に応じたゾーンを設け、その成長度合いに応じて少人数指導、習熟度別学習、グループ学習など多様な学習活動が可能な大小の学習空間を、オープンスペースと普通教室を連動させて作り出す。
- 日々の活動が主体的、能動的に行えるよう子供の目線に配慮するとともに、自主学習や読書をはじめ、理科や社会など疑問に思ったことを自ら調べられるラーニングセンターを学校の中心に据え、子供の自発性、向学心を伸ばせる施設とする。
- ICT環境や、小中一貫教育の充実を視野に入れた施設とする。
- 日本の伝統・文化の理解が深めやすい空間を備えた施設とする。
- 子供の健康や体力向上に資するため、運動施設はゆとりのある、利用のしやすさに配慮した配置とする。

#### (2) 子供の笑顔がはじける安心・安全で快適な学校

##### ～「集団生活の場」としての健康的かつ安全で快適な学校づくり～

- 歩道状空地と植栽が調和し、街に溶け込み、安全で、かつ、学校に来ることが楽しくなる空間をつくる。
- 特別支援学級の充実を含め様々な人々への配慮が盛り込まれたユニバーサルデザインを基調とした施設とする。
- 子供たちの環境教育にも活用できるエコスクール(環境共生型学校)を基本とし、木質化した内装など、快適で温もりのある施設とする。
- 子供たちが安心して過ごせるよう将来に渡った施設の安全性や不審者の侵入防止などの安全対策が十分に講じられた施設とする。

#### (3) 自然の風、地域の風が吹きぬけ、地域の中心にある学校

##### ～「地域の公共施設」としての地域に開かれた学校づくり～

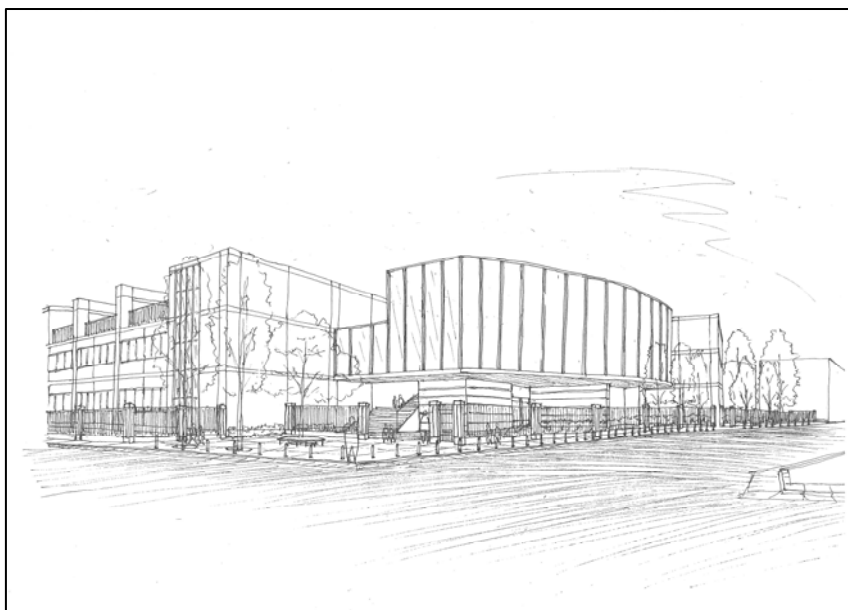
- 街のランドマークとして地域の人にも愛され、また、子供たちも自分たちの街を見渡せ、地域の中の学校という意識を持つことができる施設とする。
- 地域の防災拠点としての十分な機能を備えた施設とする。
- 学童クラブを校内に設置し、放課後に子供たちが安全・安心に過ごせる場所をつくる。
- 子供・保護者ととともに地域の人にも自然環境の大切さを感じることができる施設とする。

## 2. 基本計画案

### (1) 基本計画案の主な特徴

#### ①配置計画

- ・ 校舎、体育館の配置は、主に教室等の日照、通風と、校庭の日照を重視して決定しました。必要な運動スペースを確保し、校庭と体育館との一体的利用を図ることと併せて、周辺の交通事情を考慮に入れて正門を配置しています。
- ・ 現状とほぼ同じ校庭スペースを確保し、敷地の有効利用を図りつつ、近隣への日照等の影響を低減するため、体育館を1階分地中化し、体育館の上にプールを配置する計画としています。
- ・ 敷地外周部に歩道を設置して、特徴ある既存樹木と一体となる緑化空間を確保しつつ、児童の安全性、周辺環境との調和に配慮する計画としています。
- ・ 新しい校門前にポケットパークを設置し、児童の安全を確保しながら地域拠点としての風格と機能を併せ持たせた計画としています。



北西側エントランスイメージ

#### ②階構成

- ・ 校舎は、1階部分に職員、保護者等が主に活用する管理スペースと児童が使用する特別教室を配置し、2階、3階に児童の日常活動の中心となる普通教室ゾーンを配置しました。外部空間と離れた2階、3階に普通教室ゾーンを配置することで安全性を確保し、開放的で自由な児童の活動エリアを設ける計画としました。
- ・ 校舎2階部分に設けたデッキ通路は、児童を昇降口へ導く動線空間としてだけでなく、教室に近い位置にある運動スペースとしても機能するよう配慮しました。

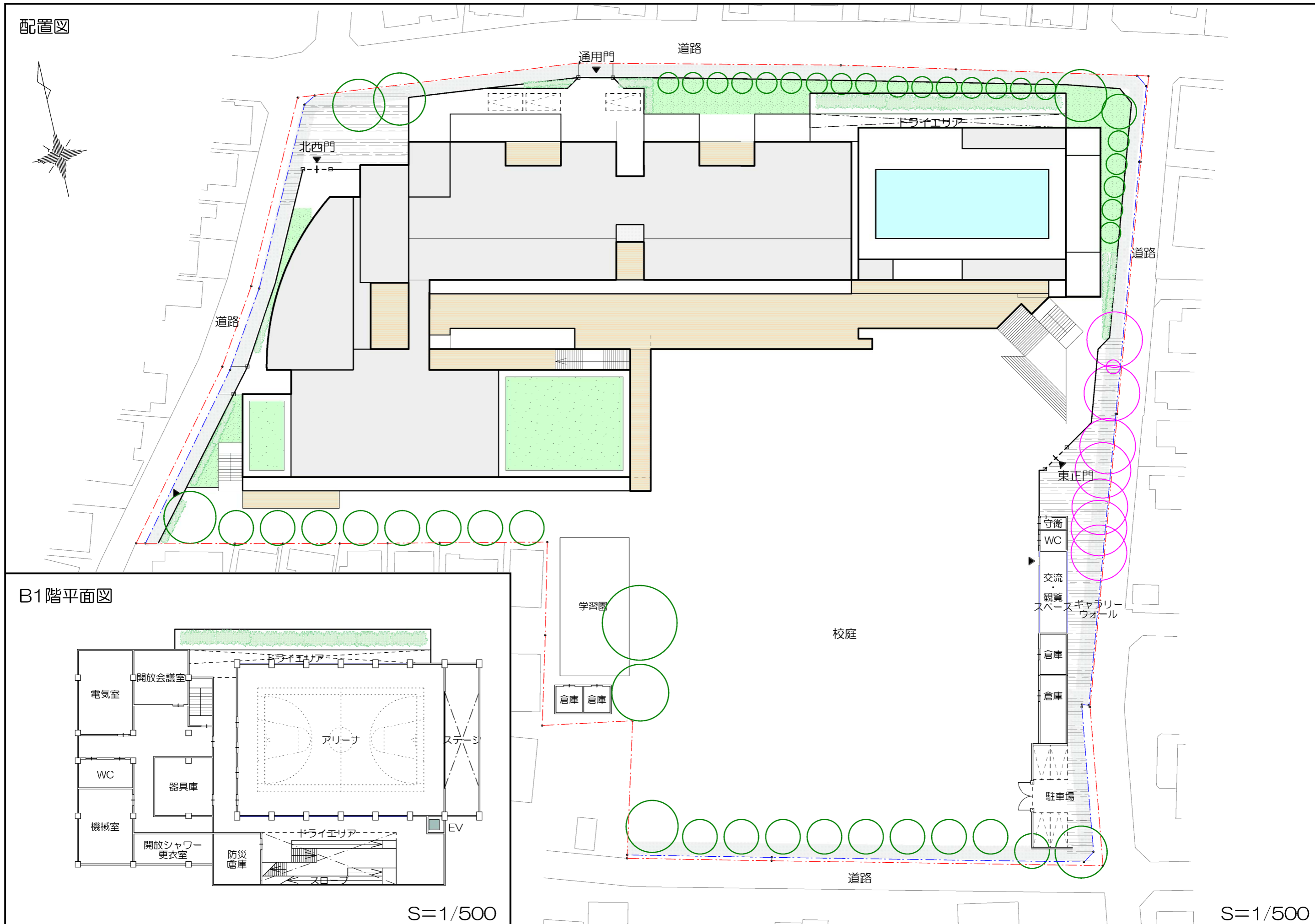
### ③平面計画

- 低学年、中学年、高学年に分けて、学年ユニットを構成しています。学年ユニットごとに普通教室、少人数教室、オープンスペースや収納スペース、水場スペース等の大きさや配置に変化を持たせ、その学年に応じた多機能な学習環境を形成しています。
- 自主学習や読書等、自ら調べることのできるラーニングセンターを学校の中心に配置しています。図書室、コンピュータ室機能を盛り込み、壁を曲面にして吹抜けを設ける等、平面的にも立体的にも視覚的効果の高い形状としています。
- 3階南側にランチルーム、家庭科室、和室を配置しています。多目的に使用することができ、開放的で快適な空間を連続して配置することで、学年単位の集会や地域の交流スペースとして活用することができます。

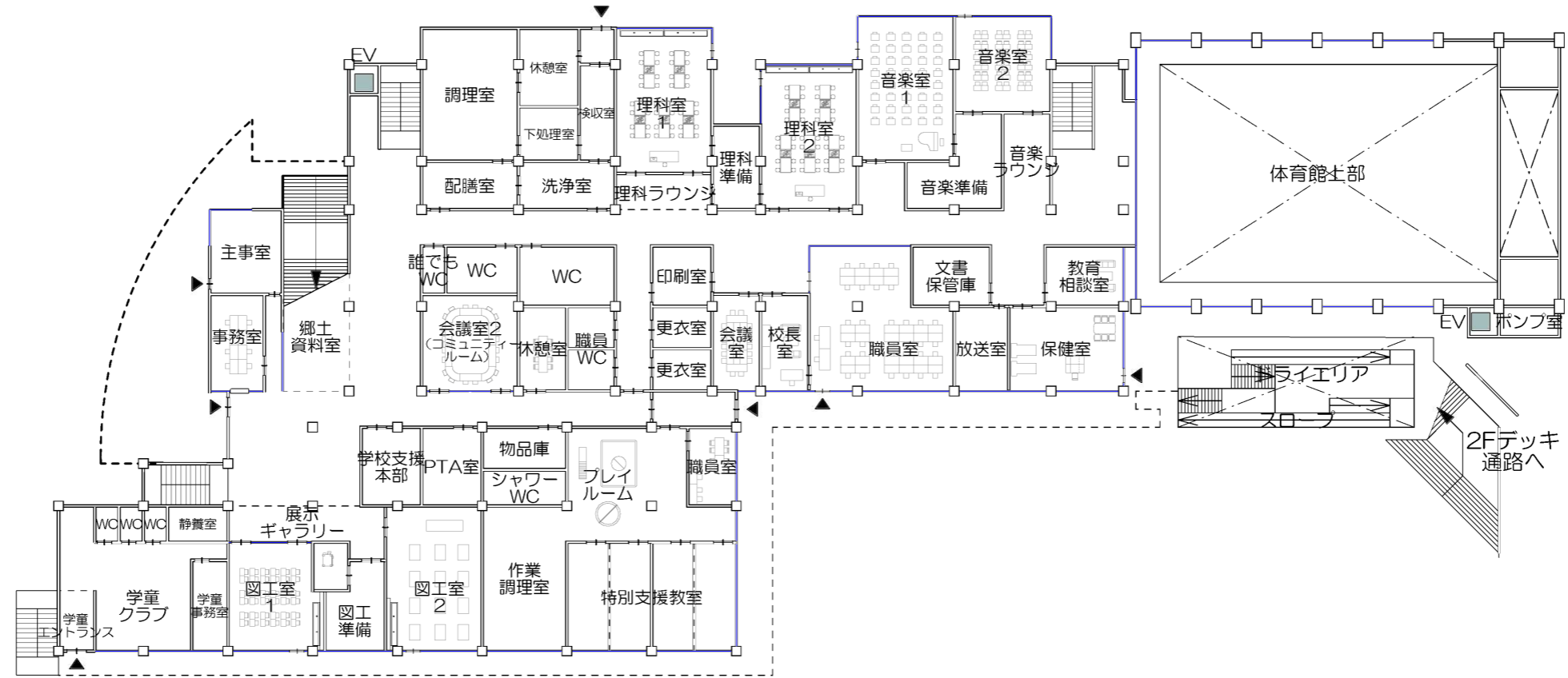


デッキ通路イメージ

(2) 配置図、各階平面図

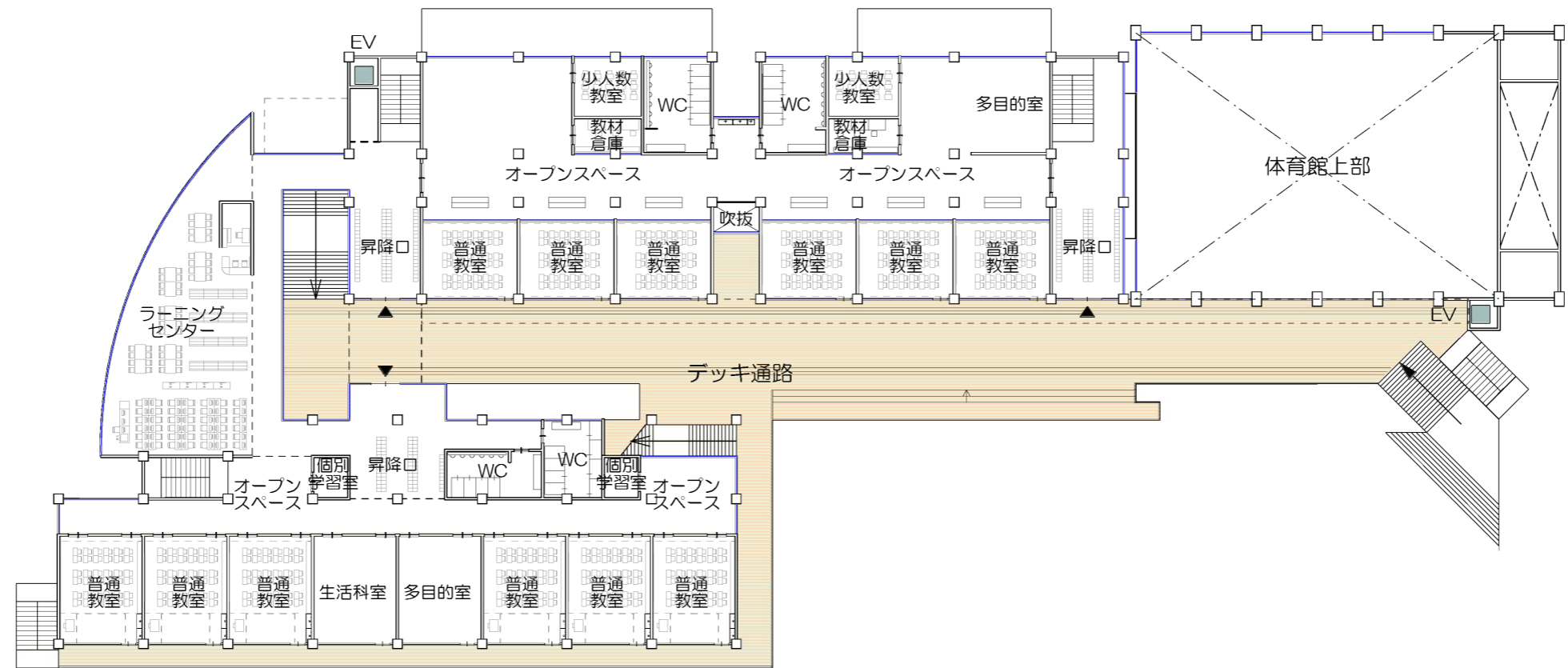


1階平面図



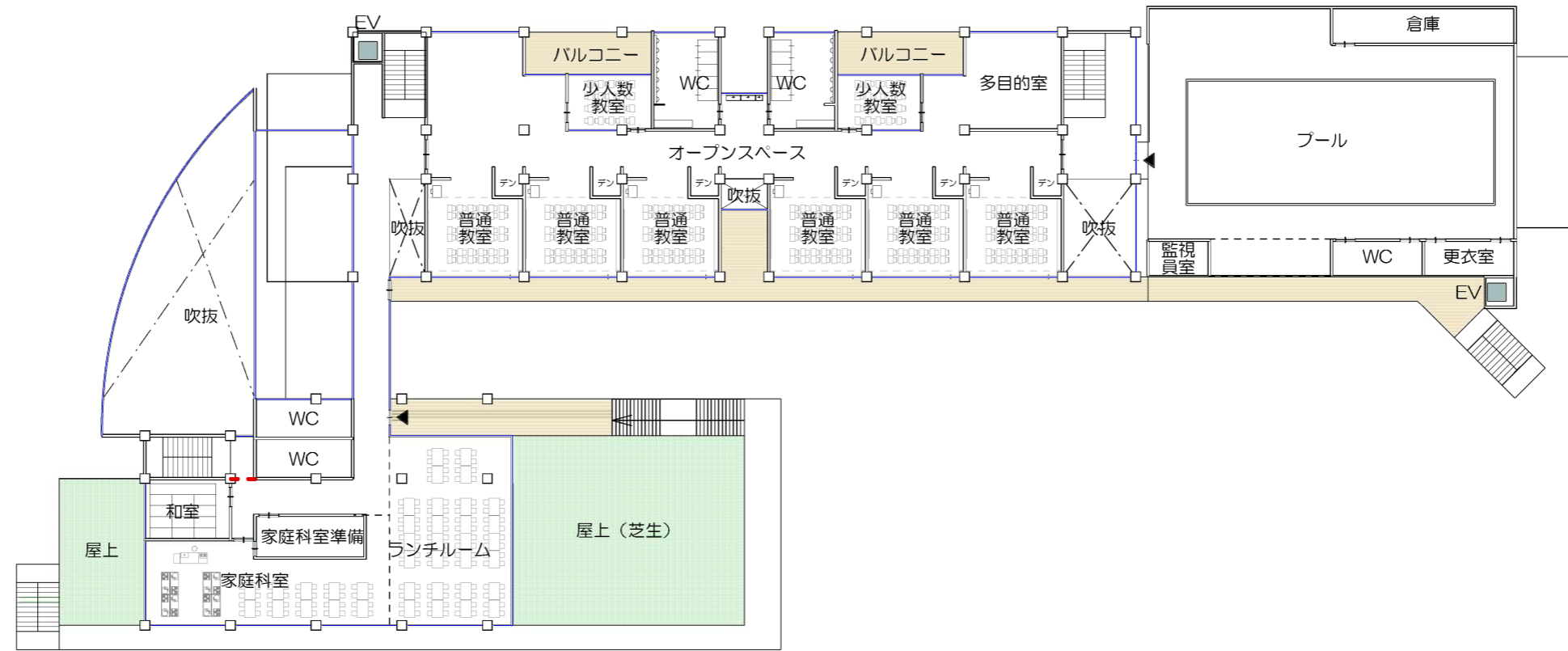
S=1/500

2階平面図



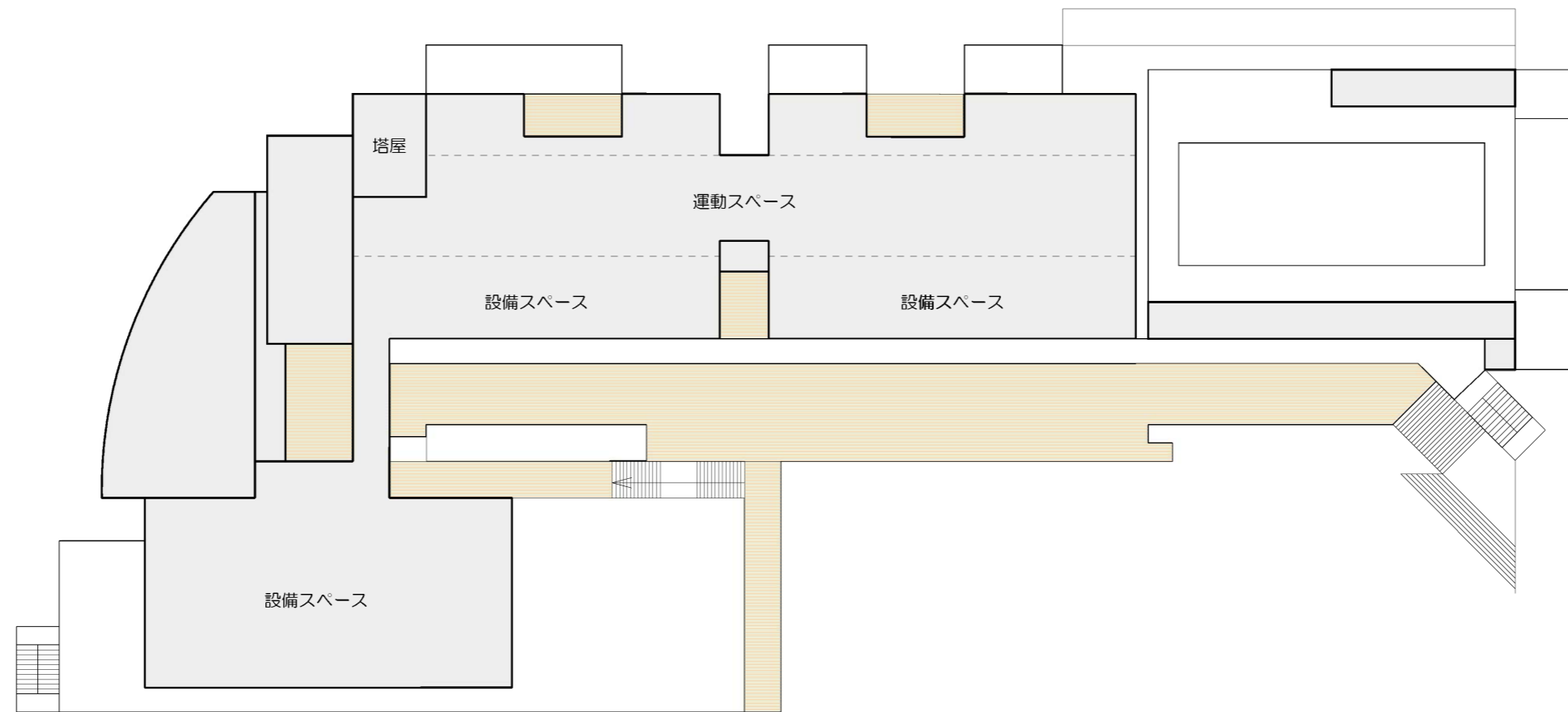
S=1/500

3階平面図



S=1/500

R階平面図



S=1/500

### 3. 今後に向けた意見・要望

これまでの議論・検討を踏まえた協議会としての意見・要望について、次のようにまとめましたので、今後の検討及び設計等の中で、可能な限り配慮していただくよう望みます。

- (1) 新しい高井戸第二小学校もエコスクールとして設置してほしいが、校庭の芝生化は養生期間、メンテナンスなど課題も多いことから慎重に検討して欲しい。また、何でも取り入れるというのではなく、効果等を見極めた上で、取り入れてほしい。
- (2) この地域は、「ほたる祭り」が行われているように、恵まれた自然を生かし、自然環境を大切にしていく意識の高い地域であり、この学校でも、ほたるも成育できるようなビオトープづくりを検討して欲しい。
- (3) 普通教室周りのオープンスペース・少人数教室等は、今後の設計の段階で更に詳細を検討してほしい。
- (4) 最終回の協議会で各委員より出された、「学校の外観は周囲の景観との調和のとれた色彩とし、地域のシンボルとして親しまれる学校づくりをしてほしい。」等の意見・要望については、学校と調整を図りながら十分検討し、可能な限り設計に活かすよう望みます。

## おわりに

本協議会は、平成22年6月10日に第1回の協議会を開催以降、9回にわたり高井戸第二小学校校舎改築について検討を行ってきました。

近年の学校教育においては、「生きる力」を身に付けることが重要であると言われており、身に付けた知識や技能を基に、自ら考え、判断し、行動することにより、他の人々や地域社会に貢献できる人間を育てていくことが強く望まれます。このため、子供たちが自ら調べ主体的に学べる施設が必要とされるとともに、地域・保護者の方々の生涯学習や交流の場として、地域コミュニティの核となる施設づくりを行う必要があります。

これを踏まえ、今回の基本計画案においては、学校の中心には、図書室とコンピュータ室の機能を統合したラーニングセンターを配置し、自主学習や読書等が身近になる環境を整えます。2階には災害時の避難経路や小さな運動スペースにもなるデスク通路を設けるほか、学校の敷地外周には安全な歩道を設け、既存樹木などを利用し新たな緑化空間を創出し、子供たちが安全に登校できる環境を整えます。また、地域の方々の利用を踏まえた動線計画としています。

これらに加え、これまでの検討の中、今後に向けた意見・要望として大きく4点をあげましたので、十分に検討していただければ幸いです。さらに、近隣への配慮としてグラウンドの砂埃対策やプライバシー等への問題については十分注意して改築計画を進めていただくことを求めます。

限られた検討期間ではありましたが、本報告書が高井戸第二小学校校舎改築に十分反映され、次代を担う子供たちのためにふさわしい学校となり、これまで以上に地域に愛され、育まれる施設となっていくことを願って止みません。

平成23年3月